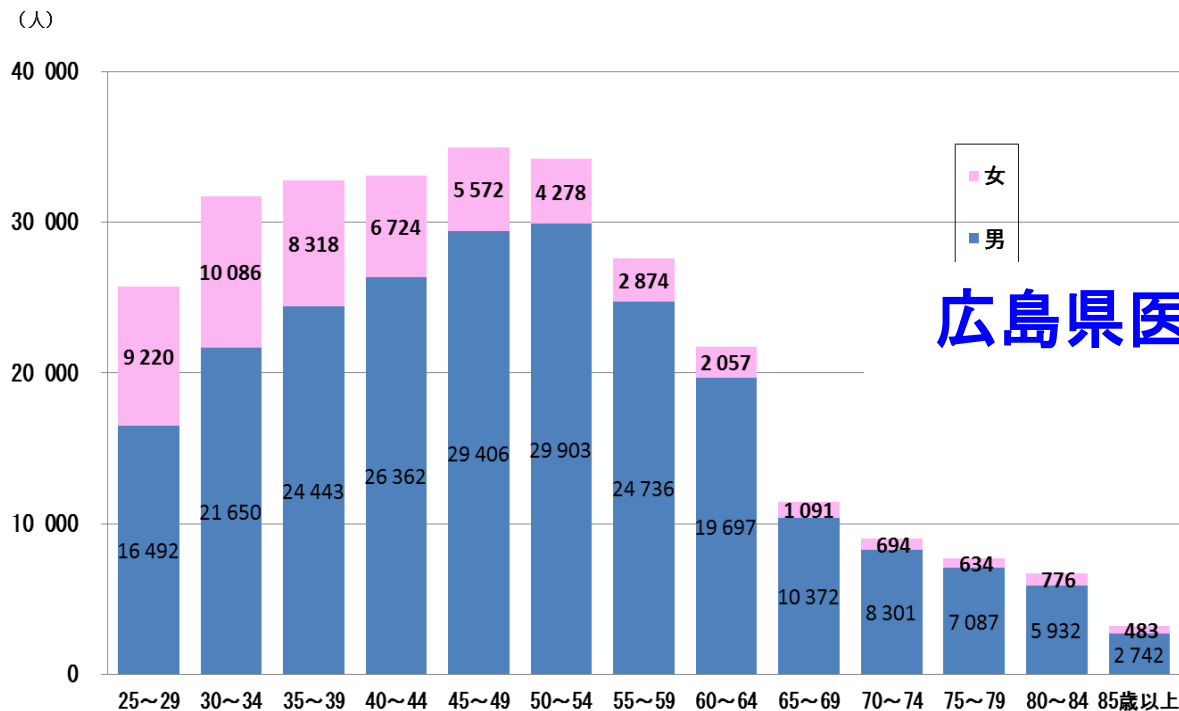


広島大学および公的病院等における ワークライフバランス支援とキャリア支援



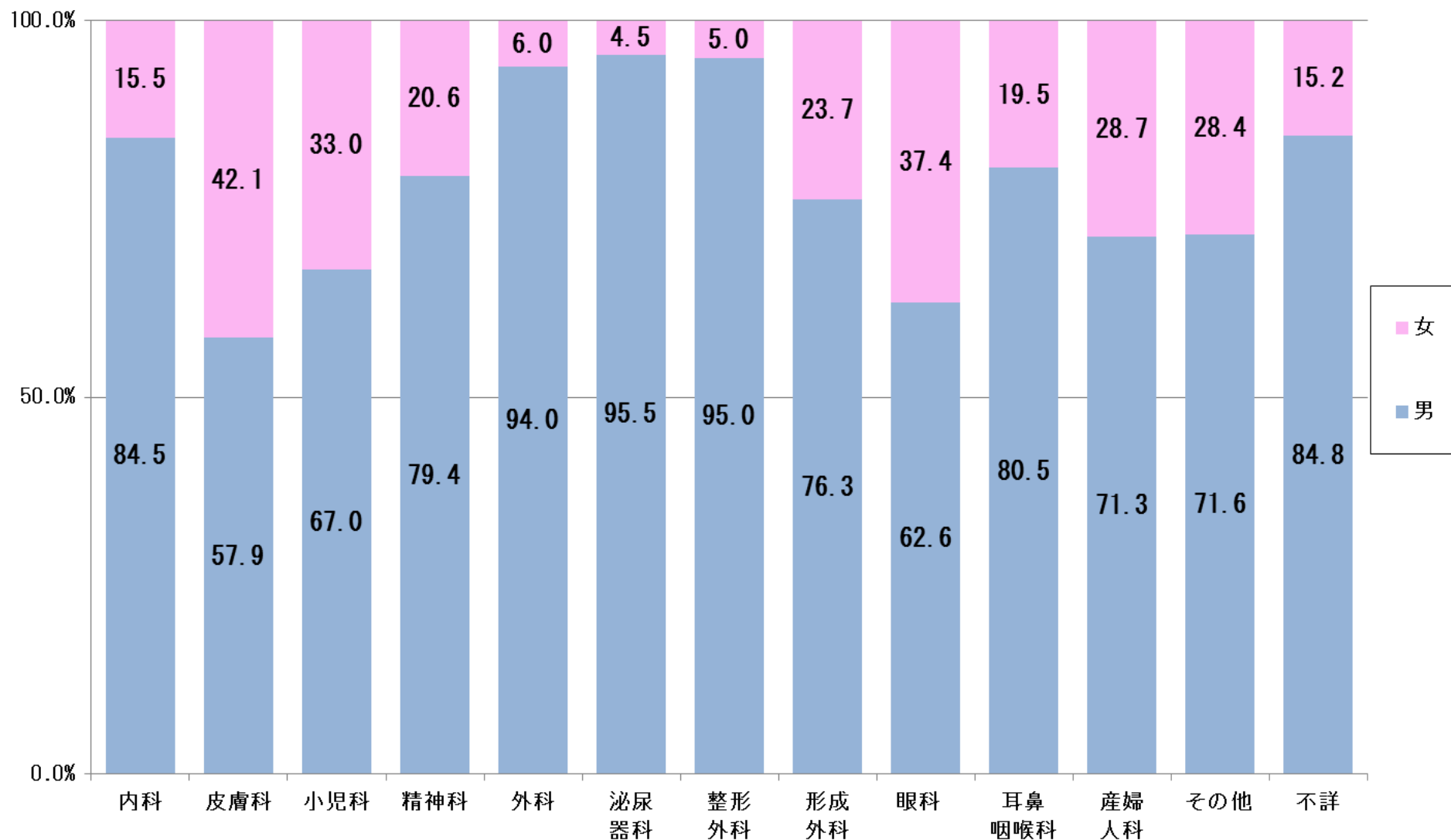
年齢階級別医師数の男女比

広島県医師会女性医師部会

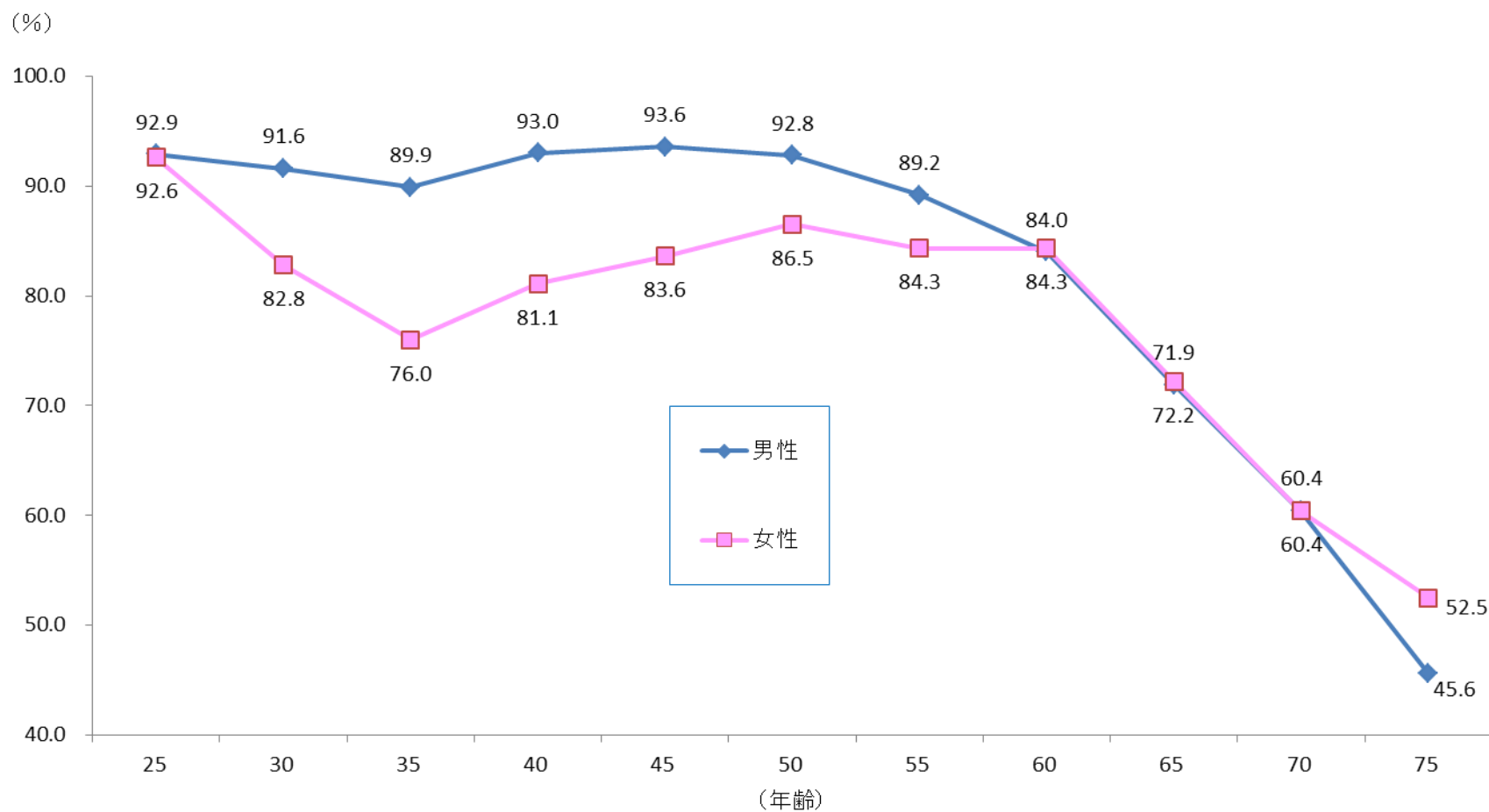
檜山 桂子



診療科別男女別 医師割合



女性医師の活動率



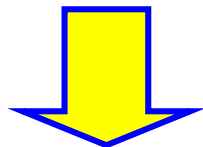
※医師が25歳で卒業すると仮定した場合の就業率。

「日本の医師受給の実証的調査研究」(主任研究者 長谷川敏彦)

目的と方法

入局する医局、勤務する病院が、仕事と家庭の両立支援を意識しているかどうかは、女性医師がワークライフバランスを保って生き活きと活躍するために重要

男性医師も子育てに参画すべき・したい



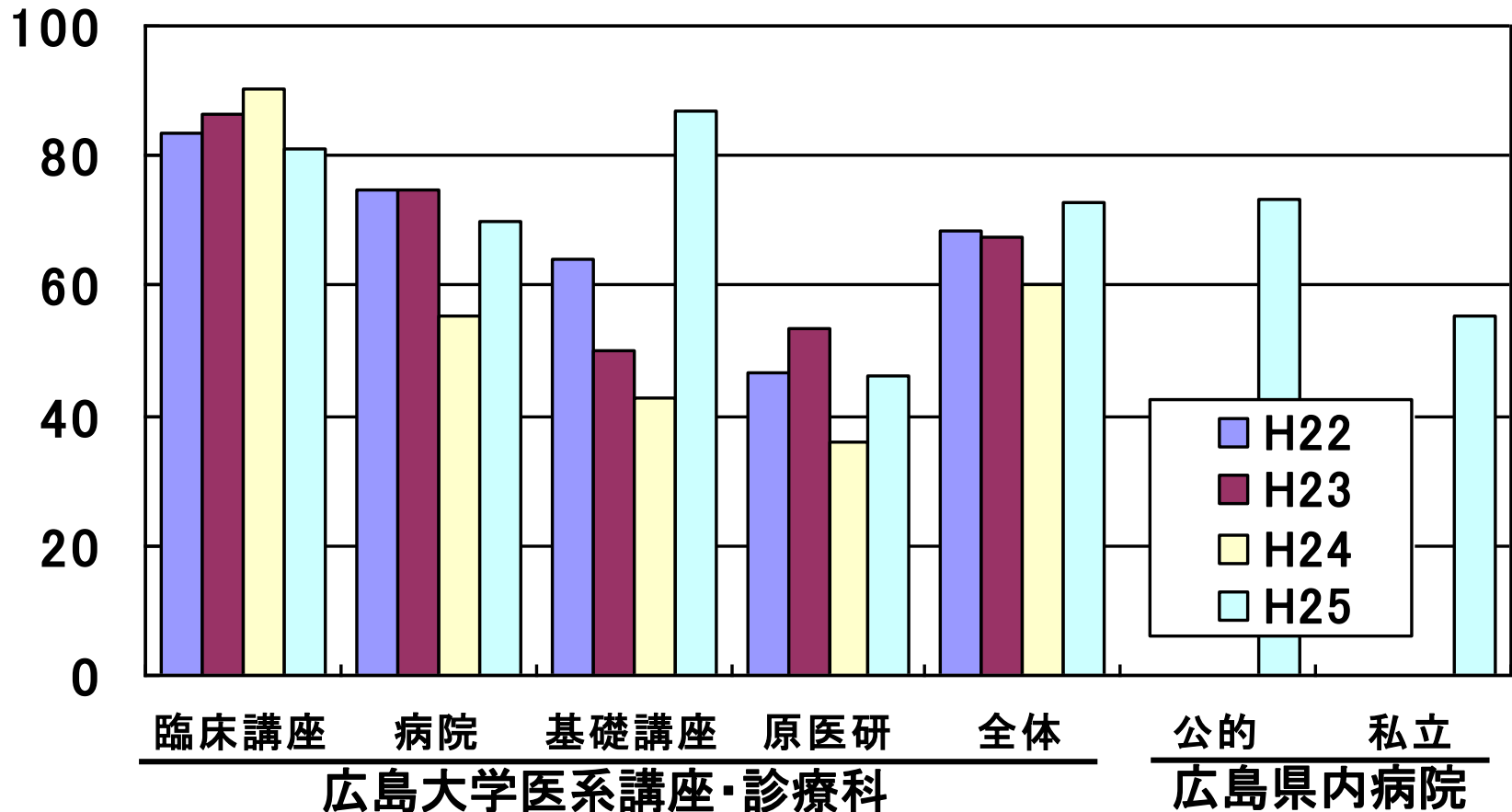
広島大学の各講座・診療科、広島県の公的病院等
がどのように意識しているかアンケート調査

平成22年度から毎年行っている広島大学各講座へのアンケートに、内容を改編して公的病院等にも調査を行い集計。

結 果

1、女性医師等へのフォロー体制に関する広島大学各講座・診療科 および広島県内病院へのアンケート(2013.8.)

回収率： 広島大学43/59=73%、公的病院：19/26=73%、私立病院： 21/38=55%



本年度は基礎系講座の回答率が高まりました

2、女性医師の会がある： 6/43講座 (14%)

産科婦人科学
整形外科学
放射線診断学

脳神経内科学
麻酔蘇生学
放射線腫瘍学

県内病院： 0/40病院

赤字： 臨床講座
黒字： 基礎講座
青字： 県内病院

3、男女医師・研究者割合： 女性が30%以上： 18/43講座=42% 女性人数順

皮膚科学	(64%、n=28、女性教員25%)
小児科学	(54%、n=28、女性教員13%)
自然科学研究支援開発C	(67%、n=21、女性教員50%)
産科婦人科学	(62%、n=21、女性教員50%)
分子内科学	(32%、n=37、女性教員 0)
放射線診断学	(55%、n=20、女性教員40%)
麻酔蘇生学	(44%、n=25、女性教員8%)
眼科(視覚病態学)	(42%、n=26、女性教員29%)
脳神経内科学	(37%、n=30、女性教員 0)
疫学・疾病制御学	(71%、n=14、女性教員75%)
神経生理学	(83%、n=6、女性教員67%)
神経薬理学	(38%、n=8、女性教員25%)
心臓血管生理学	(30%、n=10、女性教員25%)
病理学	(40%、n=5、女性教員 0%)
免疫学	(40%、n=5、女性教員67%)
放射線細胞応答	(50%、n=2、女性教員0%)
がん化学療法科	(33%、n=3、女性教員 0)
放射線医療開発	(33%、n=3、女性教員0%)

4-1、講座構成員男女比 (うち子供あり女性医師)/37講座総計

教授:	42:1	(2%)	}	教員
准教授:	24:0	(0%)		
講師:	42:6 (3)	(13%)		
助教・助手:	123:24 (5)	(16%)		
医科診療医(専任)	75:45 (14)	(38%)		
＋ 社会人大学院	41:14 (4)	(25%)		
大学院生(専任)	147:53 (15)	(27%)		
➤ 育休取得者総計	0:21	(100%)		
➤ 講座内委員総計	90:17	(16%)		

- ・ 講師・助教・育休取得者・講座内委員割合は増加
- ・ 男性育休取得者は依然ゼロ

4-2、病院構成員男女比 /19公的病院・21私立病院

	公的病院	私立病院 (≥200床)
総医師数:	1569 : 372 (19%)	405 : 100 (20%)
当直有常勤:	992 : 198 (17%)	191 : 11 (5%)
責任職:	166 : 13 (7%)	64 : 9 (12%)
➤ 育休取得者総計	0 : 20	0 : 12
➤ 病院内委員総計	3683 : 798 (18%)	897 : 362 (29%)

- ・ 公的病院では、女性医師も男性と同等に当直を担当しているが、責任職は少ない
- ・ 男性育休取得者はやはりゼロ
- ・ 院内委員は、男性と同等に担当

5、出身医師(同門会)女性割合 (n > 10 割合順)、同門会女性役員

視覚病態学	43%	(n=122)	15%
疫学・疾病制御学	36%	(n=24)	
麻醉蘇生学	36%	(n=40)	17%
皮膚科学	35%	(n=64)	19%
腎臓内科	30%	(n=28)	
脳神経内科学	29%	(n=58)	7%
小児科学	29%	(n=102)	12%
分子内科学	28%	(n=218)	2%
放射線診断学	26%	(n=37)	7%
放射線医療開発	21%	(n=13)	
産科婦人科学	21%	(n=80)	5%
血液・腫瘍内科	20%	(n=23)	17%
精神神経医科学	19%	(n=64)	25%
消化器・代謝内科学	15%	(n=146)	5%
分子病理学	13%	(n=18)	0%
耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学	12%	(n=25)	0%
整形外科	6%	(n=22)	0%
腫瘍外科研究分野	6%	(n=14)	0%

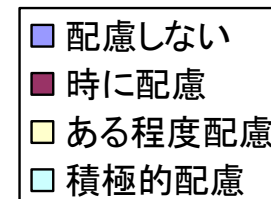
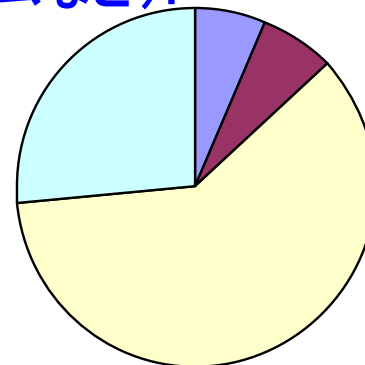
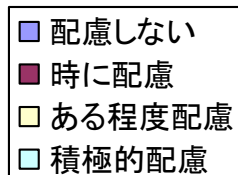
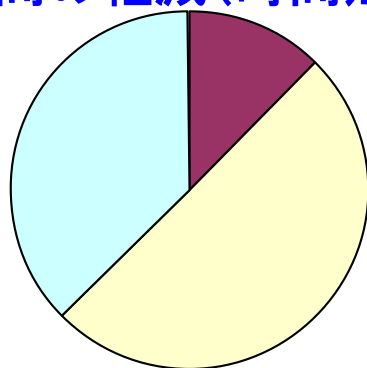
6-1、子育て支援を積極的に支援する講座・診療科

赤字： 臨床講座

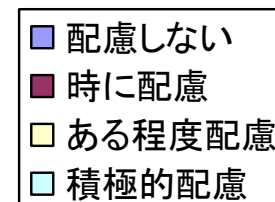
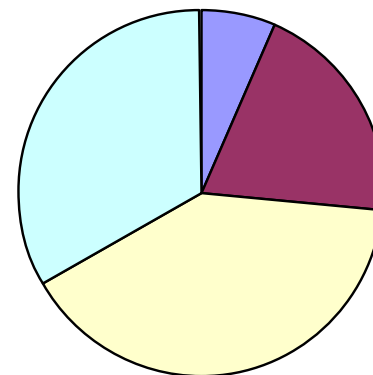
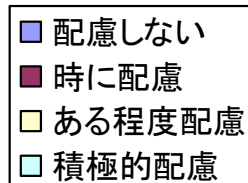
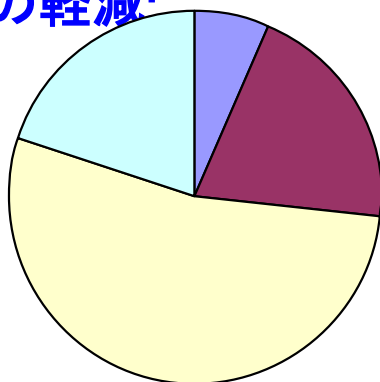
- 1) 勤務時間の軽減(時間短縮・フレックスタイムなど): 皮膚科学、脳神経内科学、視覚病態学、分子病理学、産科婦人科学、整形外科、耳鼻咽喉科学、救急医学
新たに: 心臓血管生理医学、病理学、疫学・疾病制御学、公衆衛生学、消化器・代謝内科学、麻酔蘇生学、総合診療科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液・腫瘍内科
- 2) 仕事量の軽減: 皮膚科学、脳神経内科学、視覚病態学、産科婦人科学、整形外科、救急医学
新たに: 麻酔蘇生学、総合診療科、リハビリテーション科、腎臓内科、血液・腫瘍内科
- 3) チーム制による負担軽減: 皮膚科学、脳神経内科学、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学、救急医学、整形外科 新たに: 病理学、消化器・代謝内科学、麻酔蘇生学、総合診療科、血液・腫瘍内科、リハビリテーション科、
- 4) 当直免除: 皮膚科学、脳神経内科学、視覚病態学、小児科学、放射線診断学、産科婦人科学、整形外科、耳鼻咽喉科学、救急医学、腎臓内科、腫瘍外科 新たに: 消化器・代謝内科学、分子内科学、血液・腫瘍内科、麻酔蘇生学、総合診療科、リハビリテーション科、循環器内科
- 5) 子供の病気・学校行事のための有給休暇取得
小児科学、放射線診断学、救急医学、皮膚科学、脳神経内科学、分子内科学、産科婦人科学、新たに: 心臓血管生理医学、病理学、分子病理学、疫学・疾病制御学、公衆衛生学、自然科学研究支援開発、消化器・代謝内科学、麻酔蘇生学、総合診療科、リハビリテーション科、
- 6) 育児希望: 脳神経内科学、小児科学、放射線診断学、産科婦人科学、整形外科、救急医学、分子内科学、腎臓内科 新たに: 病理学、分子病理学、公衆衛生学、自然科学研究支援開発、消化器・代謝内科学、循環器内科、リハビリテーション科、血液・腫瘍内科
- 7) 育休: 皮膚科学、脳神経内科学、産科婦人科学、整形外科、救急医学、小児科学、腎臓内科、放射線診断学、新たに: 病理学、分子病理学、公衆衛生学、視覚病態学、麻酔蘇生学、消化器・代謝内科学、総合診療科、リハビリテーション科、循環器内科、血液・腫瘍内科
- 8) 男性医師が子育て支援を希望した場合、女性医師同様に配慮する
リウマチ・膠原病科、新たに: 公衆衛生学、放射線細胞応答、自然科学研究支援開発、形成外科、放射線腫瘍学、分子内科学、腎臓内科、血液・腫瘍内科 (原則配慮しない: 3講座)

6-2、病院における子育て支援 左： 公的病院、 右： 私立病院

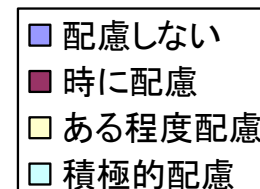
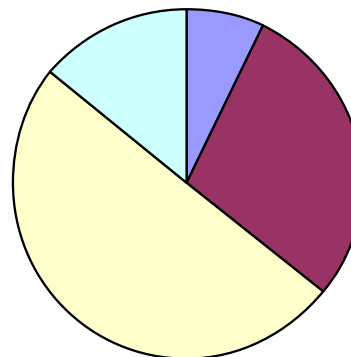
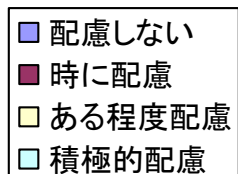
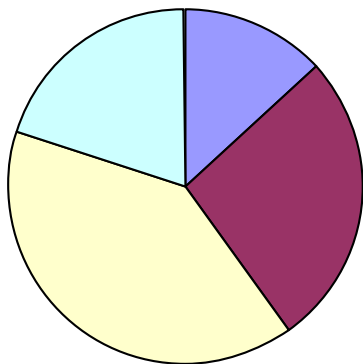
1) 勤務時間の軽減(時間短縮・フレックスタイムなど):



2) 仕事量の軽減:

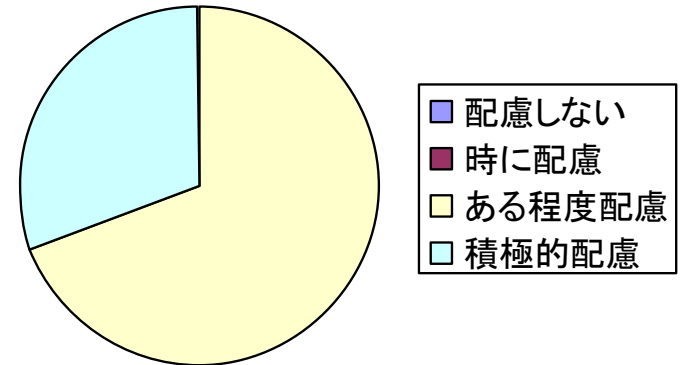
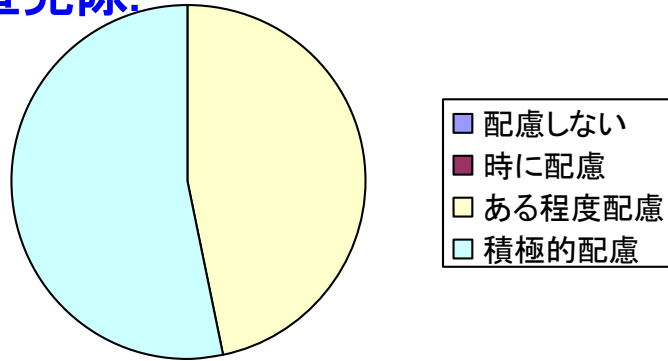


3) チーム制による負担軽減:

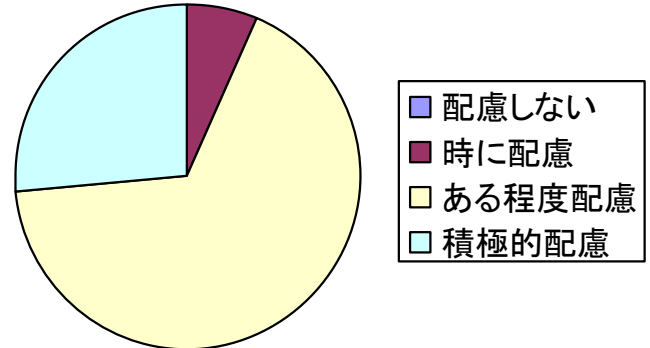
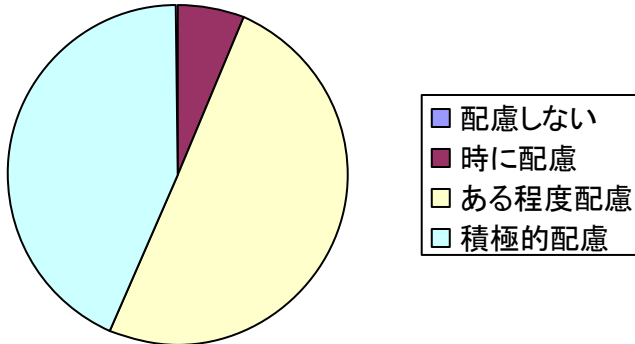


6-2、病院における子育て支援 左： 公的病院、 右： 私立病院

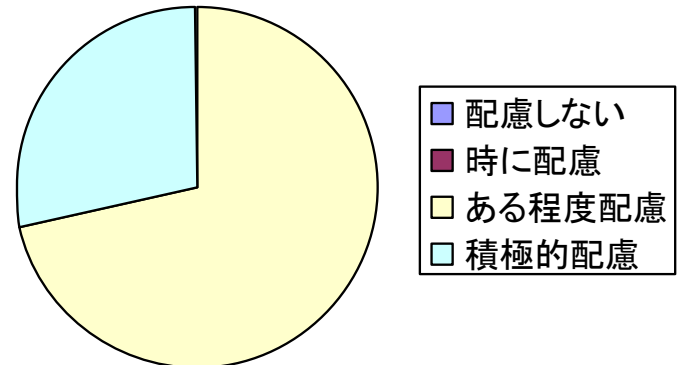
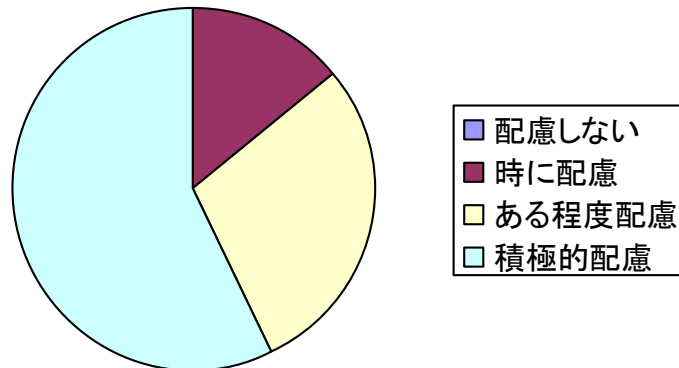
4) 当直免除:



5) 子供の病気・学校行事のための有給休暇取得

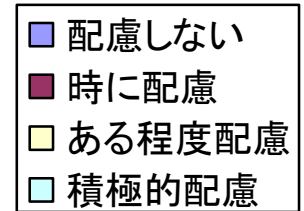
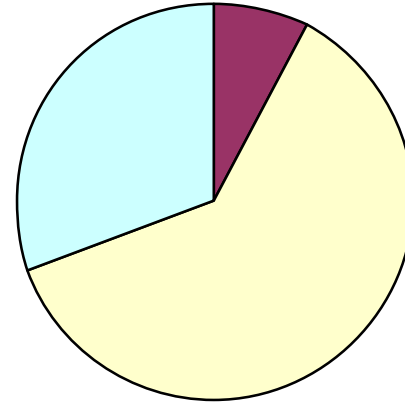
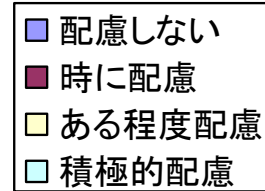
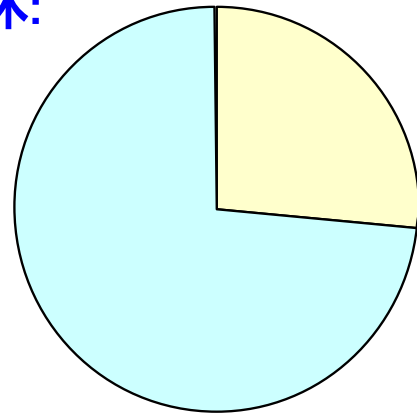


6) 育児希望:

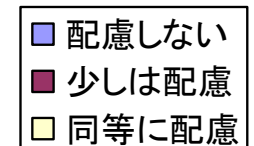
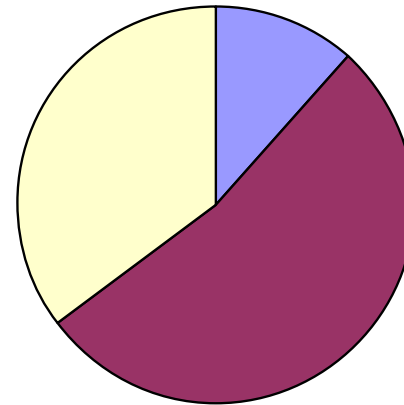
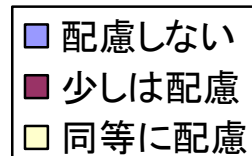
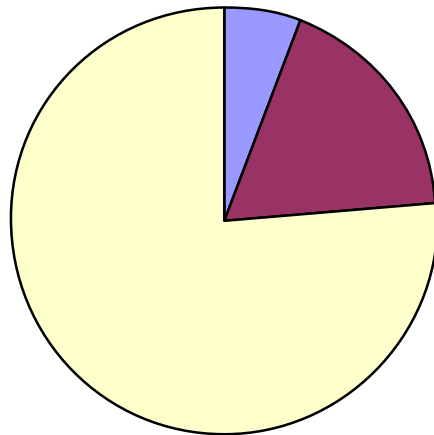


6-2、病院における子育て支援 左： 公的病院、 右： 私立病院

7) 育休:



8) 男性医師が子育て支援を希望した場合、女性医師同様に配慮する



7-1、各講座における支援に伴うデメリット(なし:あり 数)

1) 給与面 (11:12):

当直手当・外勤収入・勤務時間減少による減収、etc

2) キャリア (17:5):

専門医受験資格・手術例減少・教員ポスト(助教)昇進が遅れる、etc

7-2、各病院における支援に伴うデメリット(なし:あり 数)

1) 給与面 (公的 15:3 私立 8:8):

時間に応じた減収

2) キャリア (公的 18:0 私立 15:2):

昇給しない、通算の勤務時間から除外、etc

8、要望・コメントについて

1) 「子育て中の女性医師の要望に応えられるよう、医師会、市内病院、大学が協力することが大切と思います」

→ **女性医師相談窓口(広島県医師会)、
ふるさとドクターネット広島(広島県地域保健医療推進機構)
日本医師会女性医師バンク** などをご利用ください

本人のメリット: ・女性医師向けのワークライフバランスが保てる求人情報が得られる
・女性医師のコーディネーターが個人的相談に応じる

病院のメリット: ・紹介料が無料のため、短期雇用であっても損をしない

医局のメリット: ・制約が多い子育て中の医師の職場探しに医局が時間をとられない
・子育て中も仕事を継続することで、早いフルタイム(医局人事)復帰が期待できる

2) 「以前より、女性医師のライフバランスを考慮した勤務について対応していますが、その一方で、夜間、土日祝日の緊急手術、病棟での重症患者の対応、土日祝祭日の処置当番等が独身女性医師、男性医師に負担となってきました。今後は、**支援を受けるべき時期には、十分にそれを受け、出産、育児が落ち着いてからは、診療レベル、医学レベルをあげるような高いモチベーションをもった女性医師**が多く排出されることを期待しています。女性医師のサポートを考える際、支援を受けた後の女性医師の活躍のあり方についても、検討、啓発ください。」 → **全くそのとおりと思います！**

3) 「有休など、教授を含めた上司が法律を知らない事が多い。有休／産休は権利であり、上司であっても本来は拒否できないこの点をしっかり理解してもらうための啓発が必要」

→ 広島大学URLの「**仕事と子育ての両立支援**」のページ(<http://www.hiroshima-u.ac.jp/sankaku/ryouritu/>)から資料がダウンロードできますので、ご参照ください。

結 論

- ✓ 病院や臨床系講座のみならず、基礎講座も積極的に女性医師・女性研究者支援に取り組んでいます！
- ✓ 男性医師への子育て支援を考慮する講座・診療科・病院も少なくありません
- ✓ 家庭と仕事を両立するため、種々の支援体制をご利用ください：

医局、 広島大学男女共同参画推進室、
女性医師相談窓口(広島県医師会)、
ふるさとドクターネット広島(広島県地域保健医療推進機構)、
女性医師バンク(日本医師会、not women only)、 etc

アンケート調査にご協力くださいました各講座・診療科・病院に深謝いたします。
今後とも、ワークライフバランスを保って医師が生き生きと働き続けられる体制
へのご支援をよろしくお願いいたします。

(これまでの調査集計および今回の個別結果は、広島県医師会ホ-
<http://www.hiroshima.med.or.jp/ishi/joseiishi/> に掲載します)

広島県医師会女性医師部会
後援： 広島大学男女共同参画推進室

